

令和8年度

教育行政の施策概要



鹿児島県教育委員会

目 次

	ページ
はじめに.....	1
I かがしま未来創造ビジョン・鹿児島県教育大綱.....	2
II 鹿児島県教育振興基本計画	
1 基本目標.....	3
2 本県教育の取組における視点.....	6
3 本県教育施策の方向性.....	8
4 基本目標と施策の関連図.....	10
5 令和8年度教育委員会予算の概要.....	11
III 令和8年度の施策概要	
1 主な事業.....	12
2 全39施策の事業概要.....	14
3 計画の実現に向けた事業概要.....	90

(※ 施策の体系は、P10の「基本目標と施策の関連図」を御覧ください。)

はじめに

県教育委員会では、国の教育振興基本計画を参酌し、また、「かごしま未来創造ビジョン」や県教育大綱等を踏まえ令和6年2月に策定した「第4期鹿児島県教育振興基本計画」に基づき、10年後を見据えた本県教育の目指す姿の実現に向けて各種施策に取り組んでいます。

この計画では、基本目標に「夢や希望を実現しともに未来を創る鹿児島の人づくり～誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会を目指して～」を掲げ、「知・徳・体の調和がとれ、主体的に考え行動する力を備え、未来の社会の創り手となる人間」「伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養い、互いに認め、高め合い、生涯を通じて幸せや生きがいを感じながら意欲的に自己実現を目指す人間」を育成するため、令和6年度から5年間に取り組む施策として、5つの方向性に基づき、39の施策を体系化しております。

ここに、基本目標の実現に向けて、令和8年度に取り組む施策や事業を示し、本県教育の充実と発展を目指して、これらの施策や事業を積極的に推進します。

(※ 県教育振興基本計画の施策体系に基づき、他部局所管事業についても掲載しています。)

I かがしま未来創造ビジョン・鹿児島県教育大綱

かがしま未来創造ビジョン(改訂版) (令和4年3月策定)

おおむね10年後を見据えた中長期的な観点から、鹿児島を目指す姿や施策展開の基本方向などを示すもの

【鹿児島を目指す姿】

誰もが安心して暮らし、活躍できる鹿児島

- 1 未来を拓く人づくり
～県民一人ひとりが地域に誇りを持ち多彩な個性と能力を発揮する社会へ～
- 2 暮らしやすい社会づくり
～誰もが生涯を通じて健やかで安心して心豊かに暮らせる社会へ～
- 3 活力ある産業づくり
～地域の魅力・資源を生かした産業の振興が図られ、将来を担う新たな産業が創出されている活力ある社会へ～

(教育関連部分抜粋)

1 未来を拓く人づくり

～県民一人ひとりが地域に誇りを持ち多彩な個性と能力を発揮する社会へ～

地域や各種産業を支える人材、新たな未来を切り拓いていく人材の確保・育成に取り組めます。また、郷土の発展を支えようとする人材を育成するため、郷土教育の充実を図るとともに、誰もが個性と能力を十分に発揮できる社会を目指します。

【施策展開の基本方向】

IV 地域を愛し世界に通用する人材の育成、文化・スポーツの振興

- 1 子どもの夢や希望を実現する教育環境づくり
- 2 鹿児島の発展を牽引する人材の育成
- 3 文化の薫り高いふるさとかごしまの形成
- 4 「する・みる・ささえる」スポーツの振興

鹿児島県教育大綱 (令和6年2月策定)

地教行法第1条の3に基づく、本県の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱

【基本目標】 夢や希望を実現し ともに未来を創る鹿児島の人づくり

【基本方針】

1 本県教育の取組における視点

- (1) 時代を超えて変わらない価値のあるものの尊重
- (2) 社会の変化を乗り越え、未来の社会の創り手となる資質・能力の育成
- (3) 生涯を通じて一人一人が幸せや生きがいを感じることでできる教育環境づくり
- (4) 学校・家庭・地域・企業等の積極的な連携・協働
- (5) 郷土の教育的な伝統や風土の活用と未来への継承
- (6) 教育デジタルトランスフォーメーション (DX)の推進

2 本県教育施策の方向性

(1) お互いの人格を尊重し、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

(2) 未来の社会の創り手となる資質・能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進

(3) 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進

(4) 地域全体で子供を守り育てる環境づくりの推進

(5) 生涯を通じて学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の振興

Ⅱ 鹿児島県教育振興基本計画

1 基本目標

《基本目標》

夢や希望を実現し ともに未来を創る鹿児島の人づくり
～誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会を目指して～

《具体的人間像》

- 1 知・徳・体の調和がとれ、主体的に考え行動する力を備え、未来の社会の創り手となる人間
- 2 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養い、互いに認め、高め合い、生涯を通じて幸せや生きがいを感じながら意欲的に自己実現を目指す人間

本県は、日本列島の南に位置するという地理的条件から、古くから中国や韓国、東南アジアをはじめ世界の国・地域の文化と接しながら、独自の歴史や文化を作り上げてきました。「郷中教育」や「日新公じっしんこういろは歌」などの教えもあり、日本の黎明期をリードした西郷隆盛や大久保利通など、多くの偉人も輩出してきています。

また、豊かな自然、日本の近代化をリードした歴史、地域に根ざした個性あふれる文化、全国に誇れる農林水産業等の産業、様々な分野で活躍している人材など、教育的資源も豊富です。

さらに、教育を大事にする伝統や風土があり、地域全体で子供たちを育てるという伝統的な地域の教育力も残っています。

平成31年2月に策定した第3期県教育振興基本計画では、「夢や希望を実現し未来を担う鹿児島の人づくり～あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり～」を基本目標に掲げ、「知・徳・体の調和がとれ、主体的に考え行動する力を備え、生涯にわたって意欲的に自己実現を目指す人間」、「伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養い、これからの社会づくりに貢献できる人間」の育成に取り組んできました。

また、令和5年6月16日に閣議決定された国の「新たな教育振興基本計画」では、教育基本法を普遍的な使命としつつ、新たな時代の要請を取り入れていく「不易流行」の考え方を基調とし、総括的な基本方針として「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」を掲げ、2040年以降の社会を見据えた教育政策の在り方が示されました。

このようなことを踏まえ、第4期県教育振興基本計画では、基本目標を「夢や希望を実現し ともに未来を創る鹿児島の人づくり～誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会を目指して～」とします。

夢や希望には、将来のなりたい自分の姿などを思い描く長期的なものや、日々の生活を振り返る中で、自分が目指す姿を思い描く短期的、中期的なものがあります。現代は将来の予測が困難な時代であると言われる中であって、子供たちのみならず、県民一人一人が、それぞれの夢や希望をもち、その実現に向けて、意欲をもって挑戦できる環境を整えていくことは、ますます重要性を増すことが考えられます。

夢や希望の実現には、規範意識、倫理観、感謝や思いやりの心、他者の痛みを理解する優しさ、生命を大切に作る心、自己肯定感・自己有用感などの豊かな心や、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、未来の社会の創り手となる資質・能力を育てていく必要があります。

また、一人一人が夢や希望の実現に向けて意欲的に挑戦し続ける中で、誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会を創ることのできる、鹿児島に誇りをもった人材育成も進めていく必要もあります。

これらのことを踏まえながら、「知・徳・体の調和がとれ、主体的に考え行動する力を備え、未来の社会の創り手となる人間」「伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛する態度を養い、互いに認め、高め合い、生涯を通じて幸せや生きがいを感じながら意欲的に自己実現を目指す人間」の育成に取り組みます。

1 知・徳・体の調和がとれ、主体的に考え行動する力を備え、未来の社会の創り手となる人間

将来の予測が困難な時代において、持続可能な社会を維持・発展させていくためには、学び続ける人材の育成が求められています。そのためには、学習者を主体として、他者との協働や課題解決型学習などを通じ、深い学習を体験し、自ら思考することを重視する考え方は、初等中等教育のみならず、生涯学習や社会教育においても重要です。

また、子供たちは、社会生活を送る上で、豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、物事を成し遂げる力、公共の精神などを身に付ける必要があります。特に、本県の子供たちは、「学力等調査」で自己肯定感が低かったことから、これを高める必要があります。

さらに、体力は人間の活動の源であり、健康の維持といった身体面のほか、意欲や気力といった精神面の充実にも大きく関わっています。一人一人が、充実した人生を送ることができるよう、生涯にわたってスポーツに親しむ習慣や体力・運動能力を身に付けさせるとともに、心身の健康づくりに必要な知識、習慣も身に付けさせる必要があります。

これらのことを踏まえ、一人一人が自分のよさや可能性を認識し、個々の状況に応じて知・徳・体の調和がとれ、主体的に考え行動する力を備え、そのよさや持てる力を発揮し、多様な人々と協働しながら未来の社会の創り手となる人間の育成を目指します。

2 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養い、互いに認め、高め合い、生涯を通じて幸せや生きがいを感じながら意欲的に自己実現を目指す人間

グローバル化する社会の中で、グローバルな立場から社会の持続的な発展を生み出し、地球規模の諸課題を自らに関わる問題として捉え、世界を舞台に国際的なルール形成をリードしたり、社会経済的な課題解決に参画したりするグローバル・リーダーや、グローバルな視点をもって地域社会の活性化を担う人材の育成を推進していくことが必要です。

そのためには、日本や外国の文化を理解し、日本への愛着や誇りを持ちつつ、グローバルな視野で活躍するための資質・能力の育成が求められており、国際的な交流活動の推進や外国語教育の充実、国際理解教育の推進などを図っていく必要があります。

さらに、個人の自発的意思に基づいて行うことを基本とし、教養を高め、多様な人々と出会い、自己実現を図る学習は、長寿化が進展する人生 100 年時代において、誰もが幸せや豊かさを感じられる社会の実現につながる重要な意義を有するものであります。そのためには、誰一人取り残されず、相互に多様性を認め、高め合いながら年齢を問わず学び続けことができる教育環境を整備していくことが必要となります。

これらを踏まえ、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養い、誰一人取り残されず、相互に多様性を認め、高め合いながら年齢を問わず学び続け、生涯を通じて幸せや生きがいを感じながら意欲的に自己実現を目指す人間の育成を目指します。

2 本県教育の取組における視点

基本目標「夢や希望を実現し ともに未来を創る鹿児島の人づくり～誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会を目指して～」の実現に向けて、次の視点から施策の推進を図ります。

(1) 時代を超えて変わらない価値のあるものの尊重

教育には、「不易（時代を超えて変わらない価値のあるもの）」と「流行（時代の変化とともに変えていく必要があるもの）」があると言われています。個人の尊重、自律心と責任感、他人を思いやる心、公共の精神、規範意識、伝統や文化を大切にする心、幅広い教養や健やかな体などの豊かな人間性は、いつの時代の教育でも大切に育んでいかなければならないもの（「不易」）であり、施策の推進に当たって重要視されるものです。

(2) 社会の変化を乗り越え、未来の社会の創り手となる資質・能力の育成

これからの時代は、社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば難しい時代になると言われています。社会の変化を前向きに受け止め、デジタル化が進展する中であっても、人間ならではの感性を働かせて、社会や人生、生活をより豊かなものにする必要（「流行」）があります。

そのためには、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、未来の社会の創り手になることができるよう、その資質・能力を育成していきます。

とりわけ、人工知能（AI）、ビッグデータ等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 においては、「主体性」「リーダーシップ」「創造力」「課題設定・解決能力」「論理的思考力」「表現力」「チームワーク」等の資質・能力を備えた人材が期待されています。また、誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会の創り手となるためには、「協働性」「利他性」「多様性への理解」「社会貢献意識」「自己肯定感」「社会的情動スキル」「非認知能力」を育成する視点も重要となります。

(3) 生涯を通じて一人一人が幸せや生きがいを感じることでできる教育環境づくり

一人一人が幸せや生きがいを感じるようにするためには、誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す学びを、学校をはじめとする教育機関の日常の教育活動に取り入れていく必要があります。

また、子供たちが幸せや生きがいを感じられるためには、学校教育を担う教師が、保護者や地域との信頼関係を築くことができ、心理的安全性が保たれ、良い労働環境にあることが大切です。

さらに、本県においては、離島や中山間地域等の地理的条件にかかわらず、どこでも充実した教育が受けられるようにすることも必要です。

これらを実現するため、必要な教育環境づくりに努めます。

(4) 学校・家庭・地域・企業等の積極的な連携・協働

学校は、一人一人の個性に応じて、基礎的・基本的な知識・技能や学ぶ意欲をしっかり身に付けさせるとともに、情操を豊かにする教育や健やかな体を育む教育を行い、児童生徒の能力を最大限に伸ばしていく役割があります。

家庭は、教育の原点であり、家庭教育は、全ての教育の出発点です。子供に社会生活を送るために必要な習慣を身に付けさせ、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図ることが求められます。

地域は、社会の基本的単位である家庭を支えるとともに、大人や異年齢集団の中での交流を通じた様々な体験の積み重ねによる人間性の育成など、子供が家庭・地域の中で役割を果たし、自立した個人として成長する上で、非常に大きな役割を担っています。

企業は、学校等と連携した職業教育^{*1}・キャリア教育^{*2}への協力、企業としての教育力や資源を活用した取組、社員のワーク・ライフ・バランス^{*3}の確保のための取組等により、社会的責任として、地域社会の教育力向上のため、役割を担っていくことが求められています。

本県教育における学校、家庭、地域、企業等の役割を再度見直し、まずは、それぞれの役割を確実に果たすとともに、積極的に他に働きかけて相乗効果を高めるなど、連携や協働を図りながら施策を推進します。

(5) 郷土の教育的な伝統や風土の活用と未来への継承

本県には、教育を大事にする伝統や精神、風土があり、豊かな自然、日本の近代化をリードした歴史、地域に根ざした個性あふれる文化、全国に誇れる農林水産業等の産業、様々な分野で活躍している人材など、教育的資源が豊富であり、また、地域全体で子供たちを育てるといった伝統的な地域の教育力も残っています。

これらを有効活用するとともに、未来への継承を図ります。

(6) 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

デジタル化には一般的に、第1段階として紙の書類をデジタル化するなどの「デジタルタイゼーション」、第2段階として業務プロセスをデジタル化するなどの「デジタルライゼーション」、第3段階としてデジタル化で業務、組織を変革することを目指す「デジタルトランスフォーメーション」があります。

教育分野においては、GIGAスクール構想による1人1台端末の実現をはじめICT環境整備が進展してきたところです。これにより、第1段階の準備は整ったところであり、今後、第2段階への移行を着実に進め、ICTを効果的に活用した探求的な学びなどの第3段階を目指します。

1 職業教育：児童生徒が働くことの意識や専門的な知識・技能を習得することの意義を理解し、将来の職業を自らの意思と責任で選択できるよう、専門的な知識・技能を習得させていく教育。

2 キャリア教育：児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

3 ワーク・ライフ・バランス：仕事と生活を調和させることで、働く人が仕事上の責任と、仕事以外の生活でやりたいことや、やらなければならないことの両者を無理なく実現できる状態のこと。

3 本県教育施策の方向性

「1 本県教育の取組における視点」を踏まえ、基本目標の実現のために、今後5年間に取り組む施策の方向性を以下の5点に整理します。

I お互いの人格を尊重し、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

お互いの人格を思いやりの気持ちを持って尊重し、基本的な生活習慣や人としてしてはならないことなど、社会生活を送る上でもつべき最低限の規範意識を養うとともに、法や決まりを遵守し、適切に行動できる人間を育てることが重要です。また、子供たちが、安心して学習に取り組むためには、所属する集団の仲間による支援や助言等が不可欠です。

本県には、「負けるな、嘘を言うな、弱い者をいじめるな」など、困難に直面したときにあきらめずに努力することや他人を思いやる心を持たなければならないという教えもあります。

将来の予測が困難な時代を生き抜いていく上で、子供たちの規範意識を養い、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性や心身共に健康で幸福な生活を営むことができる資質・能力を育成する教育を推進します。

II 未来の社会の創り手となる資質・能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進

子供たちが、基礎・基本を確実に身に付けるとともに、自ら学び、考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題を解決する能力を育む教育を推進します。

また、伝統や文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養うことや望ましい勤労観・職業観を身に付けさせます。

さらに、環境教育や福祉教育などの社会の変化に対応した教育や、子供一人一人の自立と社会参加に向けて障害の状態や教育的ニーズに応じる特別支援教育を推進します。

III 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進

学校において、それぞれの教育の目標が達成されるためには、学校や教職員がその役割を十分に果たし、「信頼される」学校づくりを進める必要があります。

また、地方創生の観点から、「次世代の学校」として、学校と地域が連携・協働し、学校を核として地域を活性化していくことが不可欠であるとの考えから、「地域とともにある学校」づくりが求められています。

さらに、信頼される学校づくりの推進に当たっては、校長のリーダーシップの下、学校における働き方改革の推進や教職員の更なる資質向上、安全・安心な環境づくりなどにも取り組みます。

IV 地域全体で子供を守り育てる環境づくりの推進

教育の振興には、地域の担う役割は大きいものがあります。本県には、「人の子も我が子も地域の子」という言葉があるように、子供を地域で育てるといふ風土が、現在でも残っています。

今後も、全ての県民が地域全体で子供を守り育てるための取組を推進します。

V 生涯を通じて学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の振興

子供から大人まですべての県民が、生涯を通じてあらゆる機会にあらゆる場所で学ぶことができ、その成果を適切に生かし活躍できることは、幸せで豊かな人生を送ることにもつながります。

また、スポーツ活動は、心身両面にわたる健康の保持増進に資するものであり、県民誰もが、それぞれの関心や適性に応じて、生涯にわたり「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しむことができる環境づくりに取り組む必要があります。

さらに、郷土の伝統文化や文化財を守り育て、様々な芸術に親しむことは、ふるさとの理解や豊かな感性の涵養に必要なものです。

4 基本目標と施策の関連図

2040年以降の社会を見据えた教育の姿

《基本目標》

夢や希望を実現し ともに未来を創る鹿児島の人づくり
～誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会を目指して～

《具体的人間像》

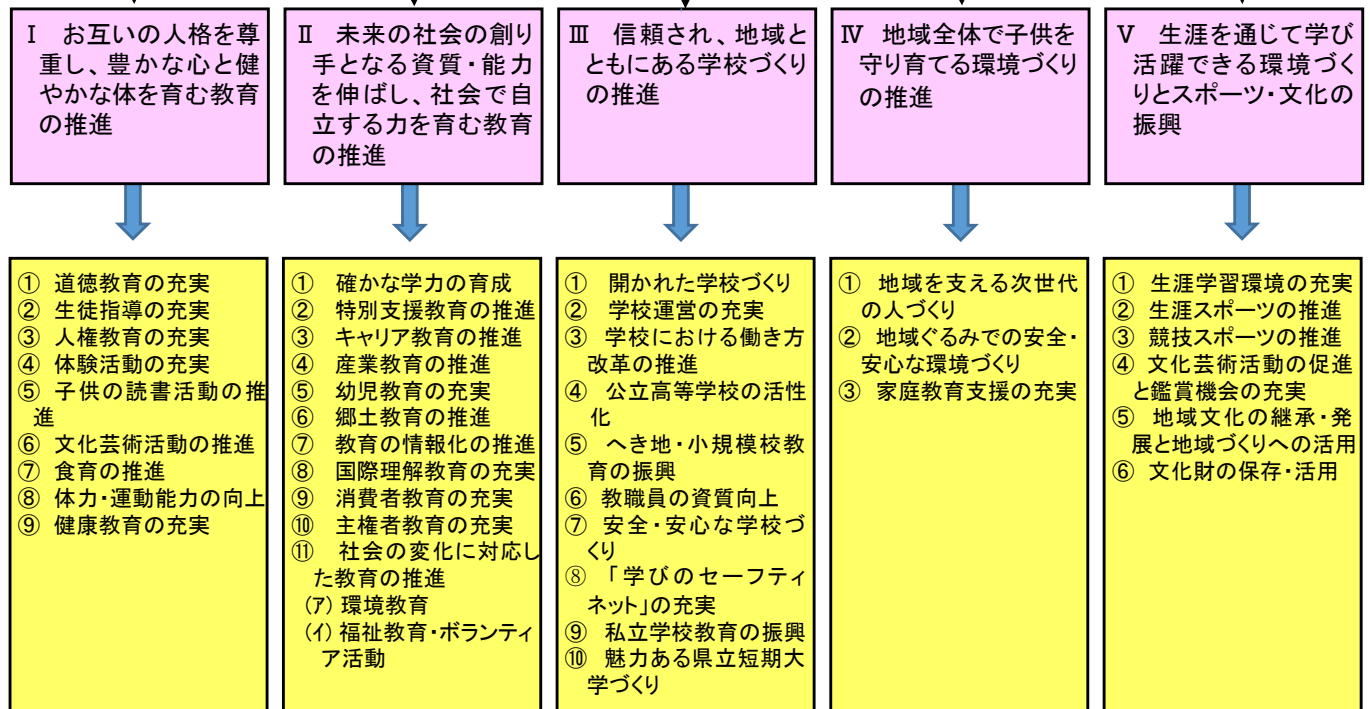
- 1 知・徳・体の調和がとれ、主体的に考え行動する力を備え、未来の社会の創り手となる人間
- 2 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養い、互いに認め、高め合い、生涯を通じて幸せや生きがいを感じながら意欲的に自己実現を目指す人間

令和6年度から5年間に取り組む施策

《本県教育の取組における視点》

- 1 時代を超えて変わらない価値のあるものの尊重
- 2 社会の変化を乗り越え、未来の社会の創り手となる資質・能力の育成
- 3 生涯を通じて一人一人が幸せや生きがいを感じることでできる教育環境づくり
- 4 学校・家庭・地域・企業等の積極的な連携・協働
- 5 郷土の教育的な伝統や風土の活用と未来への継承
- 6 教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

《本県教育施策の方向性》



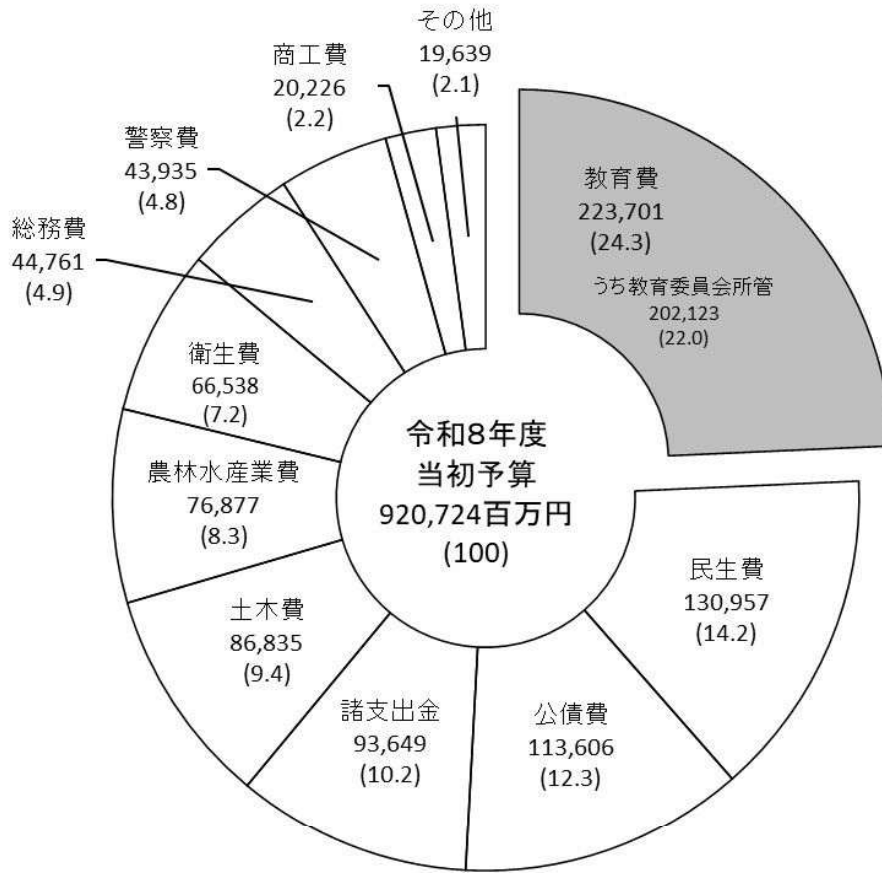
計画の実現に向けて

- 教育行政の着実な推進
- 市町村との連携・協力
- 学校・家庭・地域・企業等との連携・協働
- 国との連携・協力
- 関係部局・関係機関との連携・協力
- ICTの効果的活用
- 計画の進捗状況の確認

5 令和8年度 教育委員会予算の概要

(1) 鹿児島県一般会計当初予算

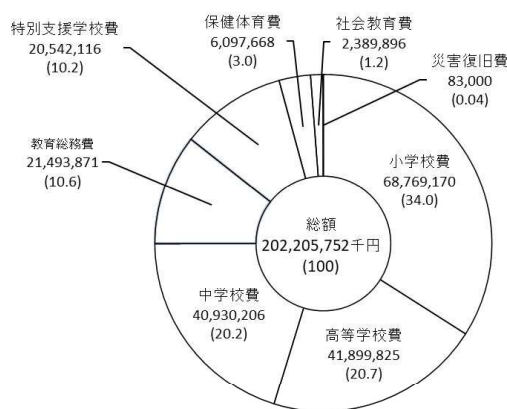
(単位:百万円、()は構成比%)



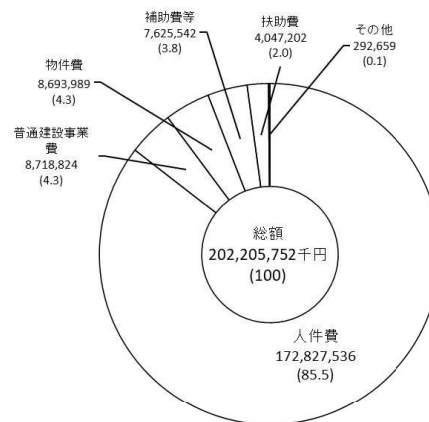
(2) 教育委員会予算の内訳

(単位:千円、()は構成比%)

○ 目的別内訳



○ 性質別内訳



(注) 端数処理のため、合計は内訳の計と必ずしも一致しない。

Ⅲ 令和8年度の施策概要

第4期県教育振興基本計画の基本目標である「夢や希望を実現し ともに未来を創る鹿児島の人づくり～誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会を目指して～」の実現に向けて、各施策の取組を進めます。

1 主な事業（**新**は新規事業、**拡**は拡充事業）

○ 生徒指導対策総合推進事業（215,281千円） 【P16】

児童生徒の様々な悩みや課題に対応するため、スクールカウンセラーや臨床心理士等による専門的な知見に基づく教育相談体制の充実を図るなど、総合的な生徒指導対策を推進する。

○ 地域スポーツ・文化活動推進事業（112,471千円） 【P28】

地域の持続可能なスポーツ・文化活動の環境を整備するため、部活動の地域展開等に向けた市町村への支援等を行う。

○ 未来を創る資質・能力育成事業（7,539千円） 【P32】

令和の教育改革の理念に基づき、社会の変化を乗り越え、未来の社会の創り手となる生徒の資質・能力の確実な育成を目指す。研究指定校や研究推進員と授業改善の研究、科学技術コンソーシアムの創設と構築、高校生探究コンテスト開催をとおして、教員の指導力や総合的な探究の時間の質の向上を推進する。

拡 特別支援教育総合推進事業（40,616千円） 【P35】

教育、福祉、医療、保健、労働等の関係機関と連携し、発達障害を含む障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援を行う特別支援教育を総合的に推進する。

新 特別支援学校卒業生等ステップアップ支援事業（20,264千円） 【P35】

特別支援学校卒業生等のうち、様々な理由で一般企業への就職が厳しい者等について、就労支援コーディネーターによる支援のもと、特別支援学校で校務補助員として一定期間雇用し、就労に必要なスキル向上等を図り、一般企業等への就職を支援する。

拡 かごしま次世代キャリア創造推進事業（27,847千円） 【P39】

高校生のキャリア形成や県内就職を含む進路選択を支援するため、高校教育課及び県立高校に配置しているキャリアガイダンススタッフによる就職支援を充実させ、これまで主な対象としていた3年生に加え、1・2年生の早期段階から、地域産業と連携した実践的なキャリア教育を推進するとともに、生徒一人一人の適性や希望に応じた進路支援体制を整備する。

新 県立高校ICT環境整備事業（145,695千円） 【P46】

県立高校において、生徒の個に応じた学習効果を高める観点から、生徒が自分に合った学習者用タブレット端末を選択の上、自ら管理し学校や家庭で利用できるよう、端末の購入が困難な生徒に対して、購入に要する経費の補助を行う。

○ 鹿児島県公立学校情報機器等整備費補助事業（1,061,380千円） 【P46】

鹿児島県公立学校情報機器整備基金を活用し、義務教育段階の公立学校における情報機器の更新等を円滑に行うため、共同調達等に係る会議体を設置し、学習者用端末の整備を行うとともに、市町村が行う整備の補助を行う。

- 「かごしまの先生」人材発掘・活躍サポート推進事業(6,581千円) 【P58】
 新たな教員志望者を発掘するため、本県の教員として働くことのやりがいや魅力を積極的にPRするとともに、県外での採用試験やブランクのある教職経験者を支援する研修等を行う。
- 教員採用試験問題作成委託事業(11,580千円) 【P60】
 学校における更なる働き方改革を推進するため、教員採用選考試験問題の作成業務等の委託を行う。
- 県立高校の将来ビジョン検討事業(664千円) 【P62】
 県立高校の将来ビジョン検討委員会からの答申や国の動向を踏まえ、今後の望ましい県立高校の教育の在り方について検討を行い、本県の「県立高校の将来ビジョン」を策定する。
- 新** 鹿児島県公立高等学校等教育改革推進事業(38,625千円) 【P62】
 高校教育改革を先導する拠点校を設定し、基盤となる連携体制を構築した上で、国が示すアドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援、理数系人材育成支援、多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保の3類型に応じた取組を実施する。
- 県立高校生徒通学支援事業(17,313千円) 【P62】
 県立高校における教育に係る経済的負担の軽減を図り、通学費を理由に生徒が希望する学びを諦めることがないように、高額な通学費を負担している生徒などに対して通学費の一部を支援する。
- 新** 日本語指導充実促進事業(8,423千円) 【P71】
 外国人材の帯同家族を含む日本語指導が必要な児童生徒の転入があった際、各小中学校が日本語指導体制を迅速に構築できるよう、日本語指導支援専門員を配置し、教員等に対して日本語指導の手法などの助言等を行う。
- 拡** 離島生徒指定大会遠征費助成事業(25,162千円) 【P71】
 離島生徒の経済的負担を軽減するため、県が指定する大会等に参加する生徒に対し、航路運賃及び楽器等の輸送費を含む費用の一部を助成する。
- 新** 公立学校給食費負担軽減事業(4,684,563千円) 【P71】
 子育て支援に取り組む自治体を支援する観点から、県立特別支援学校小学部及び各市町村へ補助金を交付する。
- 拡** 公立高等学校就学支援金等事業(3,218,871千円) 【P71】
 教育に係る経済的負担の軽減を図るため、公立高校の生徒に対して授業料に充てるための就学支援金を支給する。
- 拡** 奨学のための給付金事業(1,041,365千円) 【P71】
 授業料以外の教育費負担の軽減を図るため、国が定める所得要件を満たす世帯の高校生の保護者等に対して奨学のための給付金を支給する。
- 新** かごしまの神楽魅力発見事業(5,932千円) 【P88】
 県内に所在する神楽(神舞)の魅力・価値を発信し、次世代に継承する地域の担い手の確保・育成や、文化・観光資源としての活用促進を図るため、国の重要無形民俗文化財の指定に向けて、県内の神楽(神舞)の調査等を実施する。